認定 NPO 法人　産業クラスター研究会
URL　http://www.cluster.jp

# ぶどうのささやき

25 号
2018 年
1 月 15 日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## 「力強く、躍動する横浜の実現」に挑戦！

横浜市経済局長
林 琢己

新年明けましておめでとうございます。

日頃より、認定ＮＰＯ法人産業クラスター研究会の皆様には、本市の経済施策に対し、多大なる御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

貴会の皆様には、地域の中小企業と積極的に関わり、経営強化や技術革新に資する助言をはじめ、産学連携や行政団体との協働事業にも取り組まれ、横浜経済の活性化に御貢献いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、平成 29 年の経済情勢は、内閣府の月例経済報告によると、全国的に緩やかな回復基調が続いているとされていますが、すべての方々が実感するには至ってないのが現状ではないでしょうか。

多くの中小企業の皆様は、少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少を背景とした人材確保、住工混在による操業環境や販路拡大の取組など、多くの課題を抱えられています。本市では、そのような課題に対し解決が図られるよう、企業の皆様に寄り添い、きめ細やかな支援を継続してまいります。

また、産学官金の様々なプレーヤーが、ＩｏＴ、ＡＩ、ロボット及び健康医療等の分野においてオープンイノベーションを推進するために「Ｉ・ＴＯＰ（アイ・トップ）横浜」（ＩｏＴオープンイノベーションパートナーズ）と「ＬＩＰ．（リップ）横浜」（ライフイノベーションプラットフォーム横浜）の２つの推進システムを構築しました。

すでに、「Ｉ・ＴＯＰ横浜」では、「自動運転」、「未来の家プロジェクト」、「製造現場へのＩｏＴ導入」などのプロジェクトが実践され、「ＬＩＰ．横浜」では、「大学や研究機関にシーズを活用したプロジェクト」、「異分野企業とのマッチングイベント」、「海外展示会出展」などが実施されています。

中小企業の皆様が、更なる成長発展に結びつくための推進システムとして、これからも推進してまいります。貴会の皆様にも、ぜひ御活用くださるようお願い申し上げます。

結びになりますが、今後も、会員の皆様、一人ひとりが地域経済の活性化の担い手として、益々充実した活動されることを御期待するとともに、貴会の御発展をお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

I・TOP横浜 IoT Open Innovation Partners YOKOHAMA　　LIP.横浜 Life Innovation Platform YOKOHAMA

### クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003 年 8 月に産業クラスター研究会を設立しました。

新春のご挨拶

# 明けましておめでとうございます

理事長　木下　武

2017 年版中小企業白書・小規模企業白書によりますと、中小企業の景況感は緩やかな改善傾向を示しているものの、経営者の高齢化や人材不足など構造的な課題が進行中との指摘があります。このような課題に対して、当会としても支援方向を具体化して対応していきたいと考えています。

さて、当会の昨年を振り返ってみますと、企業・環境・海外関連の3 事業部門の業績は良好で、会員会社だけでなくいくつかの工業会にも各種支援を展開してきています。財政基盤もお陰さまで安定してきております。新しい公共支援・産官学連携支援・広報部門の3 部門も、地震と防災・情報セキュリテイ・いまさら聞けないEXCEL の講座など活動内容の幅を広げており、その結果、今年度に個人会員3 名もの入会がありました。これも、ひとえに会員皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。

昨年末は複数の大手企業による品質不正事故が発覚しており、日本がこれまで培った「ものづくり」の精神と技術が揺らいでいます。今年の抱負としては、現在取組んでいる製品輸出の材料証明支援を機会に品質問題に関する支援に取組むことができればと思っています。また、平成31 年には天皇退位に伴い元号が変更になるため、IT や帳票類の見直しが発生すると思われます。IT にとっては2 度目の体験であり、「平成」への変更時に比べ、法令で明示されるという対処のし易さはありますが、団塊の世代が退職したあとでもあるので、今回はIT や帳票などの見直しの準備を周到に行うことが必要と考えます。この面でも新たな支援に取組みたいと思っています。

「新しい公共」の新規活動としては、会員等の人脈を利活用して、活動実績のある「エコ」教育を多くの地域・学校に広めるように努力します。

課題としては寄付金が少ないという問題があり、このことは、昨年度に再認定された認定NPO としての要件にも拘わり、今後の主要課題として取り組む必要があると考えております。また、シニア集団なので会員の老齢化対策が喫緊の課題であり、より長く健全な活動を継続するためには若手会員の獲得が重要と考えております。

当会は2019 年にNPO 設立15 周年の節目を迎えます。地域社会の活性化と発展に対して、記念となるような意義ある行事を考えたいと思っております。

最後に、認定NPO 法人として、本年も活力・行動力あるシニア集団として、地域社会のニーズに応え、溌剌とした活動を進め、更なる成長を模索するとともに、内部的には、魅力的なイベントを催し会員間の親睦を高めて行きます。皆様方の倍旧のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 【歳時記】　雪の思い出

今年もまた年の始まりがやってきました。この時季になると雪を思い出します。また今年も積もることがあるのでしょうか。でも子供の頃に雪国で育った私は、こちらではその量の少なさにときに物足りなく思ったりさえするのです。やっぱり背の高さぐらい積もって、二三日交通も何も止まってしまう、そのくらいの雪の力、迫力を感じたいと、いや、これは大人（高齢者？）になった今の私の勝手なノスタルジーなのでしょうね。実際の都会での生活者には不遜で迷惑な話であるのは百も承知、どうかお許し下さい。

でも本当に雪の白さは魅力です。何物をも覆い尽くして中間色を消し去り、すべてをモノトーンの世界に変えてしまう。夜には夜で、雪明かりの街を歩くなんてのはかなりロマンティックです。北国の乾いた雪は長靴で踏みしめるたびに、コキ、コキ、という不思議な音を発していました。

こんな雪景色に似合うのは、対照的ですが真っ黒な汽車でありました、ああ古い人間。あるとき私は伯備線という中国山地を横切る列車の乗客になっていました。終点も近くなった雪の晴れ間、列車は伯耆大山の麓、米子平野に差し掛かっています。真冬だというのに私はデッキに出て、当時はそんなことができたのですが開き戸を開け放ち、振り落とされないようにと凍りついた鉄の手すりを両手でしっかり掴んで、真っ白に雪の積もった流れ行く田んぼを眺めていました。先頭の蒸気機関車は長い下り坂を転がり落ちるように進んでは、レールの継ぎ目を軽やかなリズムで刻んで行きます。時折雪原にこだまする汽笛が、白黒の世界に色を添えます。暖房で汗ばむようだった客室から解放されて、私は暫くの間この開けっ広げの出入り台に立ち、全身でこの冬の景色、風の匂い、音を感じ取っていました。

もう一つ鉄道のおはなしを。まだ十代だった頃の冬の朝、私は札幌発の夜行を乗り継いで、根室に向かう列車に乗っておりました。雪景色の中を走るうちに右手に厚岸湾が開けてきました。ちょうど昇ってきた太陽は冴え渡った北国の空気の中、文字通りキラキラと輝く金色の光の束となって容赦なく車窓に飛び込んできます。私は前夜の寝不足と光の眩しさの中に意識を朦朧とさせながら、ただただ列車の揺れに身を任せていました。今でも忘れられない、強烈な空気感の情景でありました。

当会を「定年退職」した暁には（笑い）、必ずや再訪したいと今から楽しみにしております。（立）

法人会員のページ　菱和工業株式会社

# ものづくりとベトナム　（ベトナムへの思い）

菱和工業株式会社
代表取締役 大村 裕司

2005 年に東京都の経済視察団の一員として初めてベトナムのハノイを訪れました。その時の第 1 印象は、とにかくバイク、バイク、バイク、人、人、人、ごちゃごちゃした中（今もあまり変わりませんが……）、朝早くから夜遅くまで働いている姿にとても活気を感じたことを覚えています。そのミッションの中で技術者に日本語を教えて育成しているタンロン学院に訪れる機会がありました。その学院で一生懸命日本語の勉強をしている学生と会った時に彼らのギラギラとした意欲に燃える目を見て、日本の学生との違いを大きく感じました。ちょうどその頃の日本は人手不足の時代で、中小企業が大学卒の技術者を採用できる環境ではありませんでした。

そのような環境の中でベトナム人の技術者を採用し、その人のために将来ベトナムに会社を作ろうと決心をしました。

1 年後にハノイ工科大学卒業の Vu Van Duy 君を採用して日本に技術者候補として就職をしてもらいました。来日当初たどたどしかった日本語も一年もすると意思の疎通を図れるまでになり、その後の活躍は目を見張るものがありました。

4 年後の 2009 年に 100％外資のベトナム現地法人としてのライセンスを取得し、2010 年より本格的に工場が稼働し始めました。Vu Van Duy 君には工場長として赴任をしてもらい今でも活躍をしてくれています。今後もベトナム、日本、両国にて事業の発展のために頑張っていきたいと思っております。

1976 年創業の当社は、精密機器製品、特に測量機、顕微鏡機器等の光学機器向けのプラスチック製品、ゴム製品等の部品サプライヤーとして、また光学機器付属品完成品メーカーとして成長してまいりました。

## ものづくりネットワーク

当社の調達ネットワークは大田区を中心に約 500 社にのぼり『困った時の菱和工業』として多くの製品を支えてまいりました。現在は下記の 8 つのサービスを中心に活動をしております。

**「設計１１０番」**
製品設計、設計支援、2D → 3D 変換、3D → 2D 変換

**「試作１１０番」**
○ 3 D プリンティングサービス
○小・中ロット向け金型【3RMS】

このサービスは生産ロット数が少ない（おおむね 50 ～ 200 個）製品向けのサービスです。弊社所有の共用金型を利用することにより大幅にイニシャルコストを抑えることが出来ます。また、3 D プリンターにより製作をした樹脂型を利用することにより最短で 2 日で製品を納入することが出来ます。

**「プラスチック 110 番」**
射出成型製品、抗菌プラスチック

**その他**　「ゴム 110 番」、「板金 110 番」、「加工 110 番」、「組立 110 番」、「補修 110 番」。

以上のサービスを提供して、設計から完成品組立までワンストップでのモノづくりを提供しております。

## ベトナム人技術者派遣事業

昨今の日本も大変な人手不足の状況にあり、人材を確保することが難しくなっております。当社では今まで培ってきたネットワークを利用して大学卒のベトナム人の技術者を紹介する事業をスタート致します。ご興味のある方は是非お問い合わせください。

○ ベトナム人技術者を採用するメリット
①日本での就業意欲に燃える技術者を採用できる
②比較的容易に応募者を集められる
③就業できる期間に制限がない（研修生は 3 年から 5 年）
④研修生とは違い派遣業者を通さず直接雇用できる

○ベトナム人技術者を採用するデメリット
①就業ビザが必ず取得できるとは限らない
②技術者は自分の自由意志にて職業を選択できるので、就業を保証するものではない
③応募者の面接のためにベトナムへ渡航する必要がある

**菱和工業株式会社**
〒 144-0033 東京都大田区東糀谷 5-20-19
（電話）03 － 3745 － 0721
（FAX）03 － 3745 － 5805
ホームページ：http://ryowa-kogyo.co.jp

# 歴史散歩

## 「英国と横須賀について」

個人会員　安藤 誠四郎

### はじめに

かって勤務した日産自動車株式会社から英国に出向して 1985 年から 1988 年まで 4 年ほど北東イングランド・サンダーランドに在住し、自動車組立工場建設・新車立ち上げプロジェクトに携わった。会社の名前は NMUK（英国日産自動車（株））と呼び、生産モデルは追浜工場で生産していた、ブルーバード（日本名オースター）。1986 年 7 月に 1 号車をオフライン（完成）させ、以来 30 年余経過し今や総生産台数は年間 50 万台を超える規模に発展していることを思うと感慨深いものがある。当時の経験を踏まえて、英国と横須賀市との歴史的な繋がりを考えてみたい。

### 英国（イギリス）という国

まず英国という言葉から連想するのは、エリザベス女王、産業革命発祥の国で蒸気機関車、織物機械等など各種技術の数々が発明され近代化の幕開けをした国。それ以前には世界の海洋に乗り出し、インド、中国などあちこちに植民地を作り現地の資源や財宝を本国に取り込んで、自国を豊かにし、世界の中心的な役割を果たし大英帝国として輝いていた時代がある。

現在はグレートブリテンおよび北アイルランド連合王国と呼ばれる主権国家である。イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの 4 ヵ国連合国家だ。首都はロンドンであるが、ウェールズはカーディフ、 スコットランドはグラスゴー、北アイルランドはベルファストと夫々首都がある。

### 歴史的な繋がり　その 1
### 按針塚（京浜急行　按針塚駅下車）

徳川時代初め、オランダの東洋探検船隊のリーフデ号が東洋に向かったが、台風に遭遇し豊後国（大分県）臼杵に漂着した。生き延びた 24 名中に英国人の航海長ウイリアム・アダムスがいた。彼は時の将軍、徳川家康の信任を得て、外交顧問として仕えたほか砲術、造船術、航海術等西洋文明を伝え、横須賀の逸見村に 250 石の領地が与えられた。日本名は三浦に因んで三浦按針と呼ばれた。

三浦按針塚

現在お墓は「三浦按針墓」として国の史跡に指定されており、毎年 4 月 8 日には国際色豊かに「三浦按針墓前祭」が行われている。NMUK から英国人研修生が日本に来ていた時に丁度按針祭があり、招待されたこともある。按針の没後 400 年余り横須賀はイギリスと縁がある。

### 歴史的な繋がり　その 2
### 世界 3 大記念艦「三笠」

「三笠」は明治 35 年（1902 年）イギリスで建造された戦艦です。日露戦争では東郷平八郎司令長官が乗艦する旗艦として大活躍しました。明治38年(1905年)日本海海戦ではヨーロッパのバルト海から派遣されたロシアのバルチック艦隊を対馬沖で待ち構え、集中砲火を浴びながら勇敢に戦い勝利を得ました。

1923 年現役を退き記念艦として保存され、昭和 36 年（1961 年）現在の姿に復元されました。

戦艦三笠

建造された場所は北東イングランド・サンダーランド造船所で、NMUK 工場から一時間ほどの所にあるタインアンドウエア川河口にありました。明治初期には、日本から岩倉具視視察団一行が現地に視察に訪れています。日露戦争の勝利はその後の日本に大きな自信を与えました。

かってはイギリスから最新技術を導入して日本の近代化が図られ、象徴的なものとして「三笠」がありますが、現在は日本からイギリスのサンダーランドに自動車工場を立ち上げ成功させたのは、100 年を経過してお返しをしたような気もします。

事業活動紹介

## 会員研修を実施して ～クラスタークラブの講演会～

新しい公共支援会　部会長 加藤 幹雄

これまで経営者交流会と個人会員交流会の２本立てで行っていた会員交流会を法人会員の参加が少ないため、皆さんが参加し易い形にかえようとの話から一昨年度に合同して「クラスター―クラブ」として再スタートしました。

平成 29 年度最初の会合は、当会唯一の女性会員の長嶋みさきさんに講話をお願いして８月 25 日 ( 金 )18:00 から横須賀市産業交流プラザで開催しました。

長嶋さんは「安全保障や外交政策」を大学院で研究するのに前後して、海外で仕事をし、その後人間の安全保障という観点から「脳と心に関するコーチング」を習得しました。

セミナーやイベントで話をしたり、中華街で「脳と心の相談室」を開くなど、「考え方や感情反応のパターンを変えて、ストレス解除や目標達成を助ける。固定観念を取り払って、最大限の自己実現を行ってもらう」などの仕事を続けられています。

そこで、関連したお話をしていただき、当会の会員の皆さんも意識改革をして当会の発展の手助けに役立てもらいたいと思い講演をお願いしました。

「価値観と自己評価を作り上げているもの」との題目の話では、西洋人は自己アピールをし年齢も性別も気にしないが、日本人は自らを過小評価し年齢を気にするとの違いの話や最近の日本人の若者気質についての話をしてもらいました。

特に 1940 年代から段階的に分類した年代ごとの若者の話では、生活するのに必要なことが揃っている最近の世代の人は、生れた時からすべてのものが揃っているので頑張ったら満足するものが得られるという満足感が湧かない。従って積極的に仕事をして欲するものを得ようとする気力がわかないから実力を発揮できない。

これが最近の若者気質との話には驚きました。しかし、それが我々シニアには理解できない現実のようです。

若い従業員を抱える経営者や若者との接点の少なくなったシニアの皆さんに参考になる内容に、話し上手が加わり楽しく聞かせてもらいました。

事業活動紹介

## Web サイトの自主運営全般について ～ Web サイトの自主運営～

広報部会　部会長 新井 全勝

Web サイトは、有効に使ってこそ意義があり、その運営は重要になってきます。

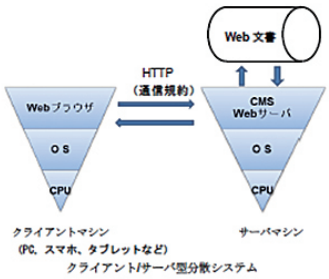
私は、当会の Web サイトをリニューアルしたときから運営を担当し６年になりますが、その体験を踏まえて改めて Web サイトの運営の全貌を捉えながら、今回と次回との２号に分けて連載させていただきます。皆さまの自主運営の一助になれば幸いです。

### ・Web サイトの運営とは

ここで、Web サイトの運営の全体像を考えてみたいと思います。Web サイトの運営には、①いつでも使えるようにはかる運用管理、②最新の状態を維持するための Web 文書の更新と保管、③有用に働かせるための Web サイトの改善とその活動、の３つの機能があります。

### ・Web サイトの運営の基礎知識

Web システムは非常に高度で複雑なシステムであることを理解しておくことが、Web サイトの運営を行うには有効と考えます。




Web システムは、Web 文書のアクセスの窓口である PC，スマホ，タブレットなどのクライアントマシンと Web 文書の作成・更新・管理・配信を行うサーバマシンから構成されるクライアント / サーバ型の分散システムです（図参照）。

クライアントには、Web 文書の検索要求と一覧表表示，Web 文書表示を行う Web ブラウザが置かれ、サーバに

は、Web 文書の管理とクライアントへの配信を行う Web サーバ（ソフト）と Web 文書の作成・編集・保管を行う CMS（Content Management System）とが置かれます。CMS を持たないサーバが半数あります。

Web ブラウザと Web サーバ間の交信には、通信回線の種類に依存しない HTTP（HiperText Transfer Protocol）という通信規約を使用します。

Web 文書は、写真、画像、図形、PDF などのマルチメディアを取り扱えるテキスト主体の文書で、印刷校正の指示記号に起源をもつ HTML(HiperText Markup Language) 言語で記述しますが、そのほかにいくつかの言語を用途によって使い分けることが必要です。

以上のように、システム構成上から見ても、Web 文書作成上から見ても複雑で高度な技術基盤の上に成り立っていることを理解してください。

### ・Web サイトの運営の形態

Web サイトの運営の形態として、① Web サイトの所有者たち自身で運営する自主運営、② Web サイトの運営業者にその運営を移管する代行運営、③自主運営と代行運営の混在、の 3 つの形態があります。

自主運営は、①ランニングコストの軽減、②要望への早期対応、③成果に対する満足感と改善意欲の向上などの利点がある一方、人材の確保、高度の専門技術の習得などの課題があります。

代行運営には、①運営負担（人・時間）の軽減、②高度の技術への対応性などの利点がありますが、外注経費が増加するという課題があります。

### ・Web サイトの自主運営の負担を軽減するには

Web サイトの制作や運営の経験のない人が自主運営をする必要に迫られたとき、どのように対応すればよいのでしょうか？ Web サイトの運営には、高度で複雑な知識が必要のため、その負担を軽減できる方法を採用することが重要です。

1）Web サイトを小さく作って育てる姿勢が必要である。小規模サイトは運営が容易であり、また育てていくうちに、知識や技術力は備わってくる。
2）高度な知識がなくても運営がしやすいツールや機能を選択する。例えば、前述の CMS 機能を持つツール、WordPress はそれらの中で 60％のシェアを持つツールであるが、これを使うと HTML 言語や Web 文書の管理の知識がなくても Web 文書を作成または編集して保管することが簡単にできる。分りやすさや見やすさなどのユーザビリティ技術は段々と身に着ければよい。
3）実サイトとは別にテストサイトを設置しておくと、いろいろなテストや実験を、ユーザに迷惑をかけることなく実施できる。
4）Web サイトの制作者やプロバイダなどのサポートは有効に活用する。
5）それでも無理だと思われた段階、または作業について代行運営を検討する。

運営の責任は、最終的に Web サイトの所有者に帰ってきます。そのことを念頭に自主運営を心掛けることが望ましいと思われます。ご検討の折には当会にご相談ください。

事業活動紹介

## 広がる広報支援活動
## NPO、障がい者団体などから相次ぐ要請

広報部会　平野 和夫

広報部会の活動は、会報誌「ぶどうのささやき」の編集と発行、HP の更新と運営、リーフレット作成と配布、当会及び法人会員の広報支援などがありますが、このうち「広報支援」が私の担当と心得、活動しています。特に最近は認定 NPO 法人として求められる「地域貢献」の視点から、地元の NPO、団体、障害者団体、小規模企業などの要請で、情報発信の機会が増えています。自分たちの活動を一人でも多くの市民、行政、団体などに知ってもらいたいという希望はどの団体も同じですが、原稿を作成して報道機関、記者クラブへの投げ込みや最近流行の SNS の方法がわからず、何もしないケースが大半と思われます。これらの問題解決のため支援しています。要請があるのは、NPO 法人、社会公益支援団体、行政機関外郭団体、中小企業、個人など多岐にわたっています。多くは「ひと・金・人脈・スキル」がない点で共通しています。

身体上の障害を持つ方々の市民組織は、積極的に外部に出て、他団体などの接触を持っていますが、さきごろ、会員 4 人が大学作業療法士学科の授業に直接参加、発症

時の様子、リハビリのきつさ、日常生活の様子などを学生に話しました。学生の要請にこたえて、トイレの使い方、ペーパーの取り方、お尻への対応などまでも話しました。学生にとっては医療機関への実習前に、患者ご本人と接触できることは勉強になりました。マスコミの取材はなく、私が一部始終を撮影、FACEBOOK に投稿しました。社会との接点ができることで嬉しいと責任者は言ってくれました。

重い心臓病を患い苦しむ小学 2 年生 S ちゃんのアメリカでの手術費用、渡航費用を集める活動団体について、厚生労働省での記者会見を模索する代表、I さんに対してマスコミ現役時代の経験の一端をアドバイスしたことがありました。またその後の京浜急行沿線他での募金活動を取材、FACEBOOK 投稿をしました。チャリティ講演会、チャリティミュージカルなどにも顔を出しました。

YRP 内で移動体通信の開発などを行う企業で構成する団体がさきごろ、設立 20 周年の感謝の集いを開きましたが、関係者に団体の存在をもっと知ってもらいたいので、取材してほしいと要請されました。私以外には地元フリーペーパー 1 社のみでした。代表は YRP より 6 か月早く設立したこと、紆余曲折はあったが、会員数も増え順調に成長したことなどを話し、出席者に謝意を表明しました。写真付きで詳細に FACEBOOK で投稿、関係者から喜ばれました。

この他、月 1 回横須賀中央駅から市役所前公園にいたる通路の清掃活動を行っている団体、障害児と健常児が一緒になって交流する母親団体、盆栽を楽しんでいる団体、横須賀市内の高校・大学生に対して市の活性化などを議論させる若者団体、中学・高校生に起業の仕方などを教え、実際に会社を設立、株主総会などを開いた経済団体、革新的なビジネスプランの横須賀から世界への発信を目指す団体などがあります。

認定 NPO 法人として今後も広報支援の視点で地域貢献をいたす所存です。

## 事務局からのお知らせ

① 平成 29 年 7 月 28 日　横須賀市立市民活動サポートセンター主催の「夏の市民活動」に参加。当会産官学連携支援部会による小学生対象の「地震を知ろう（親子で学ぶ地震対策）」の学習会をヴェルクよこすかに於いて開催。

② 平成 29 年 8 月 25 日　本年度第 1 回　経営者交流会を開催。当会女性会員の長嶋みさきさんが「価値観と自己評価を作り上げているもの」と題して講演。

③ 平成 29 年 9 月 26 日　情報セキュリテイ学習会を横須賀市立市民活動サポートセンター協力により開催。市民活動団体、NPO 法人関係者が参加。

④ 平成 29 年 10 月 21 日「金沢まつり」、11 月 11 日～ 12 日「よこすか産業まつり 2017」に出展参加。

⑤ 平成 29 年 11 月 17 日　横須賀市立市民活動サポートセンターに於いて一般の方を対象に「いまさら聞けない Excel」 学習会を開催。横須賀市立市民活動サポートセンターの「ひくてあまたの月間 2017」行事への参加でした。

⑥ 平成 29 年 12 月 8 日　平成 29 年度第 3 回理事会を開催。平成 29 年度上半期の活動実績の報告と平成 29 年度下期活動予定と通期収支見通しの報告を行いました。その後　法人会員の従業員と会員をまじえて本年度第 2 回目の会員集会として恒例のボウリング大会と忘年会を盛大に行いました。

注）①～⑥についての詳細は当会 Web サイトの該当する記事をご参照ください。

⑦ 平成 30 年 2 月は「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進強調月間」です。当会では来る 2 月 15 日　中小企業の皆さま向けに講演会を行いますのでご参加ください。テーマは昨年に続き「見せよう！中小企業の力」です。内容は別途紹介します。

⑧ 新規入会者の紹介

個人会員　仲田 清（横須賀市）　　個人会員　渋谷　喜一（東京都）

個人会員は総勢 31 名となりました。

（事務局　佐々木 興吉）

トピックス

# エコ教育授業を受けて

横浜市立西柴小学校　校長 髙橋 貞則

本校のある横浜市金沢区の金沢東部地区の青木伸一連合会長から、ＮＰＯ法人産業クラスター研究会の活動についてお話をいただき、今回のエコ教育授業を行っていただくことになりました。社会科や理科の単元で、環境に関連した学習のある 4 年生対象に、保護者や地域の方々が多く参観する土曜参観の日（平成 29 年 11 月 11 日）に授業を設定しました。

まず、「エネルギー資源には限りがあるので、普段から環境に配慮した、地球に優しい生活をする大切さ」について話をしていただきました。その後、石炭の実物体験学習（児童全員に石炭配布）や、LED と白熱灯、蛍光灯の明るさ、寿命、消費エネルギーの違いを実物を使って比較したり、照度計を使って、教室の 9 ヶ所の明るさを調べ、十分な明るさの場所の照明を消すことによって、どれだけ省エネになり電気代が浮くかを実験したりしていただきました。子どもたちは、1 時間の間真剣に話を聞いたり、歓声をあげて実験を見たりととても有意義な時間となりました。保護者の方々もメモをとったり、うなずいたりしながら興味をもって参観していました。

産業クラスター研究会の阿部様、金子様、青木様、(株) 大倉物産の吉川様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 羅針盤

本号では、三つの話題の記事がある。▼先ずは、トピックス「エコ教育授業を受けて」。横浜市立西柴小学校に実施した「エコ教育」受講先の高橋貞則校長先生から「ありがとう」の寄稿記事である。これまでは、会員が記事を作成してきた。今後は、コメントの寄稿をいただけるようなエコ教育、学習教室、講習会、などに邁進したい。▼次は、歴史散歩「英国と横須賀について」。タイトルも内容も重厚感のある歴史的な繋がりを改めて感じた。世界三大記念鑑「三笠」も日露戦争での旗艦『羅針盤』として活躍した。安藤氏が英国に建設した「自動車工場」が 100 年たって「恩返しができたとの思い」の「結び」が印象的である。▼最後は、事業活動紹介「会員研修を実施して」の記事。当会唯一の女性会員・長嶋みさき氏の「脳と心に関するコーチング」の講話である。考え方や感情反応の固定観念を取り払い、ストレスの解消や目的達成を助けるとのこと。話を聞いて、スポーツの世界では強い選手に成るには「良いコーチに付くこと」が定説である。「コーチングの概念」は、大きな社会問題となっている日本の学校教育、企業の社員教育など、あらゆる分野の新しい教育方法の『羅針盤』となる。(昭)

発　行：特定非営利活動法人　産業クラスター研究会
〒 239-0847　横須賀市光の丘 8 番 3 号　YRP ベンチャー棟 209 号
Tel & Fax：046-847-6355　E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp
横浜事務所　〒 236-0055　横浜市金沢区片吹 69 番 26 号
連絡先：046-847-6355　E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp
発行人：木下　武